

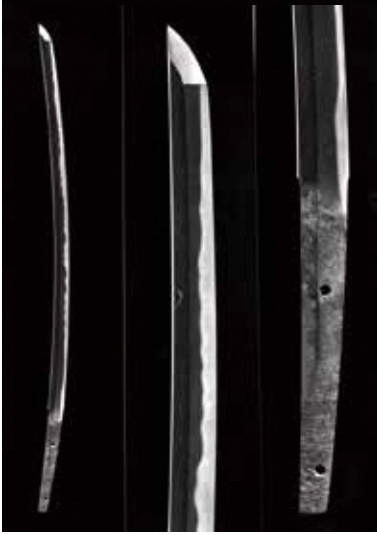
## 日本刀 ー 守り伝えられる一千年の歴史 ー

現在、博物館では埼玉県刀剣保存協議会と共催で「埼玉県名刀展」を開催しています。

日本刀は平安時代後期に誕生し、長い戦いの歴史の中で、その姿を変えてきました。用に徹し、洗練された美しさは「くろがねの芸術」ともたえられています。

刀剣は見かけによらず弱く、持ち主が手入れを怠るとすぐにさびてしまい、研磨が必要となります。刀剣を良好な状態に維持するためには、良い鞘と鍔(つば)を止めておく金具が大切です。各時代の持ち主や職人、たくさんの方の手間が掛けられて、現代まで伝えられ、今ここにあるのです。

同展では、こうした日本刀の一千年に及ぶ歴史を見ることが出来ます。展示品は、同会員秘蔵の刀剣・小道具をはじめ、博物館からは、鎌倉時代の備前一文字派吉房の太刀が、特別出品されています。



太刀 吉房 市立博物館蔵

多くの人の手により受け継がれてきた、日本刀のもう一つの歴史にも思いをはせて、同展をご覧ください。ただれば幸いです。

期間：9月24日(休)まで  
経費：入館料

## 川越のユニークなイモ行事



サツマイモの収穫の最盛期は10月。市民団体の川越いも友の会が、その10月と「九里四里うまい十三里」の十三をあわせて、昭和62年に10月13日を「サツマイモの日」として川越で宣言しました。現在では全国的に「10月13日はサツマイモの日」として公認され広く定着しています。

川越周辺では、歴史的農産物のサツマイモを生かした多くの菓子類や加工商品、料理などが販売されています。その製造・販売業者が集まり組織されたのが、川越サツマイモ商品振興会です。同振興会では、日ごろからお世話になっているお芋

に感謝するために、平成6年から「いもの日まつり(いも供養)」を毎年10月13日に開催



いもの日まつりの様子

し、翌年には「川越さつまいも地蔵尊」を妙善寺(菅原町)に建立しました。また10年前からは、11月23日に川越運動公園で少年サッカー大会「サツマイモカップ」を開催し、特産の伝統品種「紅赤」の焼き芋を選手に提供しています。

この時期に市内の直売所などで購入できる主な川越産野菜  
ナス、コマツナ、ゴボウ、カブ、ネギ、キュウリ、サトイモ、ピーマン、オクラ、カボチャ



真剣な表情で取り組む放松会の皆さん

も うすぐ敬老の日。市内には、表紙で紹介したラジオ体操などを行う元気な高齢の方がたくさんいます。富士見六地藏公園(広谷新町)で活動する太極拳のグループ「放松会」もその一つです。撮影に伺った8月23日には、60歳から80歳を超える方まで50人ほどが参加。ボランティアで教えている山科先生の指導のもと、汗を流していました。体を動かすと、自然と会話が生まれ、皆さんの交流の場にもなっているようです。

編集後記  
どんぐり

広報川越1422

■発行日/平成30年9月10日(毎月10日・25日発行)  
■発行/川越市 〒350-8601 埼玉県川越市元町1丁目3-1 <http://www.city.kawagoe.saitama.jp/>  
☎049-224-8811(代表) ☎049-225-2171  
■編集/広報室

「声の広報川越(CD)」 「点字広報川越」を作成しています。ご希望の方は、広報室までご相談ください。  
☎224-5495 ☎225-2171

私的利用の範囲を除き、記事や写真の無断転載を禁止します。

この印刷物は、グリーン購入法に適合する紙を使用し、印刷用の紙へ、リサイクルできます。 リサイクル適性

Fontworks  
UDFont